

イネ内穎褐変病（病原菌：*Erwinia ananas*）

○ 被害と発生生態

細菌による病気である。主に籾の内穎が褐変する病害であり、出穂数日頃から内穎が初め淡褐色に褐変し、のちに暗褐色になる。登熟がすすむと退色する。り病もみの玄米は褐色米、死米など品質低下が認められる。本病原細菌は自然界に広く分布し、イネ体の各部にも常在し、出穂期に降雨が続くともみを侵す。また出穂時期の高温条件（30℃以上）が発生を助長する。

○ 防除方法

（ア）耕種・物理的防除

- ・多肥を避け、上位葉の過繁茂を抑える。

（イ）薬剤防除

- ・発生してからの薬剤散布では効果が低いので、多発生が予想される場合は、穂ばらみ期から穂揃期にいもち病やもみ枯細菌病と同時防除する。



発病穂（もみの内穎が褐変する。）